



『小物入れ』もつくれたよ

親と子の折り紙教室

手軽にできる、折り紙づくりを通じて親子のふれあいを一と、1日役場会議室で折り紙教室が開かれました。

講師は、折紙技術館西東京支部長の川島操緒先生。紙とはさみだけで、ぼうし、小物入れ、ふねなど簡単に出来あがります。

「高価で危険なおもちゃが多い時代だけに、手と手のふれあいで、無限に遊びが広がる折り紙を見直さなくては——」と参加者の話。さっそく、おさらいに一生けん命でした。



今がどじょっ骨のすえどき

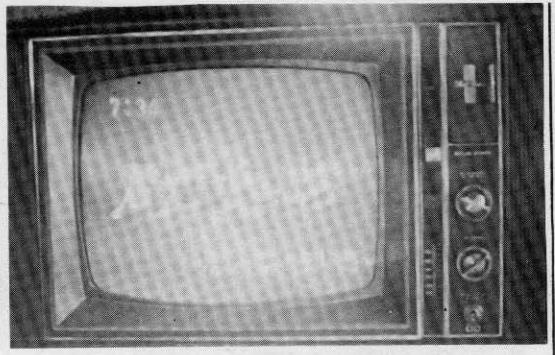
ろばた講座第三回

第三回ろばた講座は、農村評論家むのたけじさんを迎えて、開講されました。

むの氏は、「日本人は本質的に問題を考えない」と前置きして、農業問題についても「農業の構造的なものまで考えなくては……」

「場当たり的な対応をする必ず行きづまる」と厳しく農民に注文をつけました。「食べ物をだいじにして、亡びた国はない」という、むの氏の言葉に、思わずうなづく受講者も。

次回ろばた講座は6月23日「受講生の集い」の予定です。(写真 あいさつする佐藤前教育長)



ふるさとの火ーテレビで紹介

伝行事マトビ

小阿仁地区に古くから伝わるマト火が、今年も、子供たちの手で、ともされました。

マト火は、春彼岸の中日に家に帰って来る祖先の靈の“道しるべ”とも言われ、各部落の伝統行事として、伝えられてきました。

今年は、「春を呼ぶ行事」として、テレビ電波にのせて、各地にも紹介。夕やみの中に浮き出る、素朴で幻想的な炎に、町外から訪れた人も、多かったようです。

(写真 NHK話題の広場から)



合川ことぶき大学は、二十二日、第一回の卒業式を行いました。

晴れて「学士」となった第一期卒業生は、百十名。

畠山学長(町長)が一人一勤賞は十四名でした。また、長寿学士七名に、健康賞特別賞が贈られました。

吉さんの卒業論文を紹介します。

東根田 桜田 龟吉さん

(八十二歳)

私は無学のもので、こと

ぶき大学ができましたとの

ことで、日々、入学いたし

まして、字の一つでも知り

たいと思って、入学いたし

ました。

昔のことですが、婿にな

るにしても、こぬか三升も

つたら、婿になるなと言う

たものです。私は、こぬか

三升も、持てないので、婿

になりました。

昔、婿は(岸座へんに飛

ぶ)と言ったのです。今

婿は(上座へんにすわる)

と言うていますから、婿も

三升も、持てないので、婿

になりました。

昔のことですが、婿にな

るにしても、こぬか三升も

つたら、婿になるなと言う

たものです。私は、こぬか

三升も、持てないので、婿

になりました。